

◆ 卷 頭 言 ◆

大 望

学校教育部長 佐 取 幸一郎

「Boys, be ambitious.」この言葉は、1876年（明治9年）北海道の開拓使に招聘され、札幌農学校で訓育したクラーク博士の名言である。

ある方の本を読んでいた折、「Boys, be ambitious.」に続く英文があることを知ったので、紹介をする。

Be ambitious not for money or for selfish aggrandizement, not for that evanescent thing which men call fame. Be ambitious for the attainment of all that a man ought to be.

この意味は、「人としてまさにこうしなければならん、しかあるべきあらゆることを達成せんとする大望です。お金を儲けるとか、己をひけらかすということのためではない。『人間はいかにあるべきか、どうしなければならんかという大切なことを達成しよう、立派な人間になろう』という大望を抱きなさい。」という解釈になり、ambitious を大志でなく、大望と解釈したほうがよいのではと考える。（邑心文庫 安岡正篤『人間維新』より）

モラルの低下、マナーを知らないなど、大切なものを失いつつある日本社会において大望を抱く大切さをつくづく感じる。

さいたま市の目指す子ども像「ゆめをもち、未来を切り拓く、さいたま市の子ども」のゆめとは、まさしく ambitious のことである。もちろん我々大人も ambitious をもち続けなければならないことはいうまでもない。